

EU Indicators

発表日:2018年8月14日(火)

欧州経済指標コメント:4-6月期ユーロ圏GDP

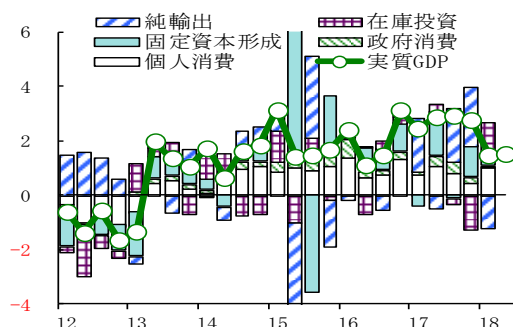
～ユーロ圏の実力は本来こんなもの～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (TEL:03-5221-4527)

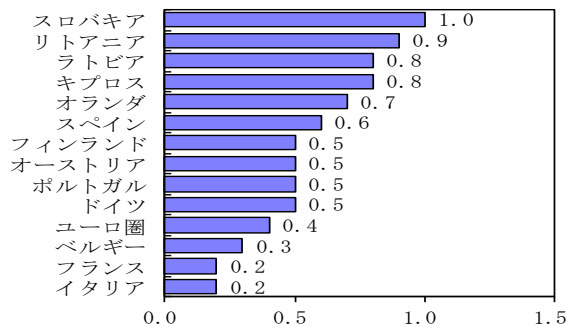
- 4-6月期のユーロ圏実質GDP成長率の二次速報値は前期比+0.4%、同年率+1.5%と、一時速報時点の同+0.3%、同年率+1.4%から僅かに上方修正された。新たに公表された国別計数は、ドイツ(1-3月期:同+0.4%→4-6月期:同+0.5%)、オランダ(同+0.6%→同+0.7%)、ポルトガル(同+0.4%→同+0.5%)が前期から加速した。既報の国別計数は、フランス(同+0.2%→同+0.2%)、ベルギー(同+0.3%→同+0.3%)が横這い、スペイン(同+0.7%→同+0.6%)、イタリア(同+0.3%→同+0.2%)、オーストリア(同+0.9%→同+0.5%)などが減速した点は、一時速報段階から不変。
- 需要項目別の内訳は9月7日の改定値で公表。新たに公表されたドイツの内訳は、個人消費と政府消費が成長を牽引、設備投資や建設投資が微増、輸出の伸びを輸入を上回ったことで外需が成長を下押しした。1-3月期の成長率が天候要因やストで押し下げられた割に、4-6月期のリバウンドが弱いとの認識は一時速報時点から不変。良好な雇用・所得環境が続いており、今後も個人消費が底堅く推移することが予想。また、米欧貿易摩擦のエスカレートがひとまず回避され、ユーロ圏が進行していることもあり、輸出への逆風は当初心配された程ではなさそうだ。ただ、同時に発表された6月のユーロ圏の鉱工業生産が前月比▲0.7%と落ち込み、7-9月期の成長に向けた発射台は低くなった。年後半の景気の冷え込みは回避されようが、大幅な再加速は期待できない。

■ユーロ圏：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：Eurostat

■2018年4-6月期の実質GDP成長率（前期比、%）



出所：Eurostat

■ユーロ圏GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目GDP	実質GDP	内需				外需		輸出	輸入
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫				
16/7-9月期	2.1	1.5	(2.0)	1.4	0.8	3.7	(0.3)	▲0.5	1.4	2.8
16/10-12月期	4.4	3.1	(2.9)	2.5	1.3	5.0	(0.3)	0.2	6.2	6.2
17/1-3月期	3.0	2.4	(0.5)	1.5	0.4	▲2.0	(0.0)	2.0	6.6	2.6
17/4-6月期	4.8	2.9	(3.4)	2.0	1.9	8.2	(0.3)	▲0.5	4.5	6.1
17/7-9月期	4.6	2.9	(0.9)	1.5	2.0	▲0.5	(▲0.2)	2.0	6.1	2.0
17/10-12月期	3.8	2.8	(0.6)	0.8	1.0	5.8	(▲1.2)	2.2	9.7	5.6
18/1-3月期	2.9	1.5	(2.7)	1.9	0.3	1.4	(1.3)	▲1.2	▲3.4	▲1.1
18/4-6月期	—	1.5	—	—	—	—	—	—	—	—

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

